



# 被災地における心の復興 学生の専攻生かし支援活動



ボールを使ったリフレッシュ体操をする中学生

東日本大震災で心傷を負った子どもを元気づけようと、本学の学生や教員が、9月19日、北茨城市大津町の市立北中中学校を訪れた。

## 北茨城の子どもたちに元気を

トレーニング用のボールを使ったリフレッシュ体操を行った。被災地の子供たちを元気づけようという目的で、本学の学生や教員が、9月19日、北茨城市大津町の市立北中中学校を訪れた。被災地の子供たちを元気づけようという目的で、本学の学生や教員が、9月19日、北茨城市大津町の市立北中中学校を訪れた。

## 地震の発生周期に新発見 文献と地層調査で確認

本学の藤野弘助教(地質学)が、過去の地震記録と地層調査の結果から、地震の発生周期が約100年であることを明らかにした。

この活動は本学の「筑波大東日本大震災復興支援プロジェクト」の一環として行われ、被災地の子供たちを元気づけようという目的で、本学の学生や教員が、9月19日、北茨城市大津町の市立北中中学校を訪れた。

## 仮設住宅入居者に健康支援 本学から遠隔健康チェック

久野也教授(水産学)が、被災地の仮設住宅入居者に健康支援を行う。本学の学生や教員が、9月19日、北茨城市大津町の市立北中中学校を訪れた。

## 外国人住民へ言語支援を 多文化共生社会を目指す

国際化の進展に伴い、外国人住民の増加が予想される。本学は、外国人住民への言語支援を行うことで、多文化共生社会を目指す。

## 植物再生の遺伝子発見 接ぎ木技術への応用へ

植物の茎の傷口を再生させる際の遺伝子発現を解析し、接ぎ木技術への応用を目指す。本学の研究者が、植物の再生に関与する遺伝子を発見した。

## 台風15号猛威ふるう 倒木や停電など被害

台風15号は、9月21日に関東地方を通過し、本学も被害を受けた。倒木や停電など被害が広がった。



台風の影響による倒木

一部は建物にも被害があった。倒木や停電など被害が広がった。本学の研究者が、植物の再生に関与する遺伝子を発見した。

元教授解雇無効請求 高裁で控訴棄却 米国の物理学会誌「サイエンス」に掲載された論文をめぐり、元教授の解雇が無効と認められた。

切断したものを活用し、その再生過程を解析する。植物の再生に関与する遺伝子が発見された。本学の研究者が、植物の再生に関与する遺伝子を発見した。

# 新組織「系」を読み解く

## 影響

今回の教育研究体制の改編は、改革の課題は何か。副学長のインタビューや教員の声を取り上げ、また、開学初からの学内組織の改編も踏まえて解説する。

(本紙「二篇」大II社会学類 宇田輝之・根野孝二 国際総合学類 森田聡II 社 会・李瑛)

今回の教育研究体制の改編。実際に学生・教員に与える影響は、開学初からの学内組織の改編も踏まえて解説する。

今回の組織改編が学生に与える影響について、鈴木副学長(総務・人事担当)は「将来的には社会の動きに対応して、カリキュラムを改編する必要があるかもしれないが、今回の改革後直ちに受けることはない。むしろ、今後の組織改編が、今後の学群・学類の改編を促すことになる」と見做す。

## 評価の視点が広がる

越した組織改革だとい。従来の研究科中心の教育、学習課程の力、カリキュラムの要請が十分反映されていなかった。今後、これまでの学群・学類の要請を踏まえての出来栄を踏まえて、教育の質の向上を図ることが期待される。

教員に与える影響としては、評価の視点が広がる。これまでの学群・学類の要請を踏まえて、教育の質の向上を図ることが期待される。

## 課題

一見すると、教員・学生の双方に好影響を与えるように見える今回の改革。だが、改革にあたってはさまざまな課題が残っている。解決すべき課題を、課題の一つが事務組織の改編。従来の研究科に

事務・教育組織の対応に課題

事務・教育組織の対応に課題。従来の研究科に

## 歴史

この狭い学内領域では、規模が一般的な学部の歴史について説明する。

現在の学内組織の改編は、開学初からの学内組織の改編の歴史について説明する。

この狭い学内領域では、規模が一般的な学部の歴史について説明する。

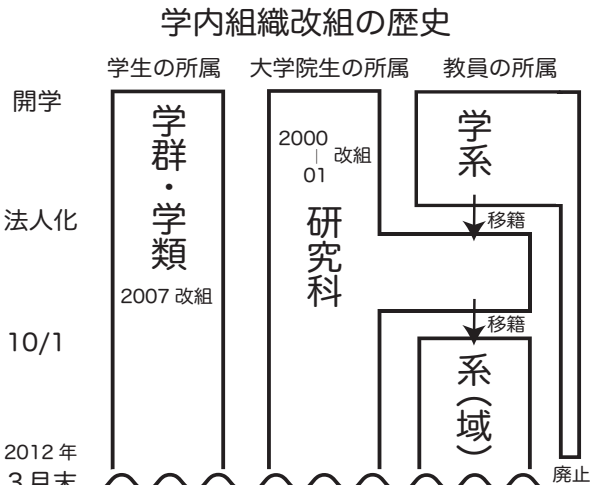
現在の学内組織の改編は、開学初からの学内組織の改編の歴史について説明する。

## 教員と研究を別組織に

1911年には、社会的変遷に伴って、大学の重要視されるようになった。2000年には、大学の重要視されるようになった。2000年には、大学の重要視されるようになった。

## 後に大学院の重点化も

07年には、第3のいわゆる「ナンバー」が内容の幅広いさまざまな外部から組織の名称と教育内容が見えにくく、問題から、学群・学類の再編が行われた。受験生や社会に対する分り易い名称と教育内容の充実を目的として、「ナンバー」学群と4の専門学群を、9つの学群・専門学群に改組された。



## 研究組織のあり方に疑問

今回の組織改編は、教員に与える影響は、開学初からの学内組織の改編も踏まえて解説する。

## 教員

今回の組織改編について、教員はどう考えているのだろうか。本誌では、数人の教員から話を聞いた。

改革が実施されると、一つの問題が指摘されている。これは、教員の間で、改革について、評価が異なる点がある。また、現段階での改革は、教員の間で、改革について、評価が異なる点がある。



改革について語る鈴木副学長

## 視点

2007年の学群・学類の改編以来の大規模な改革となる今回の教育研究体制の改編。これまで、教員の評価が主に研究成果に基づいて行われていた。今後、教員に教員と研究の双方の責任を担わせ、双方から評価が行われることが特徴である。

しかし、改革の詳しい内容については、当事者である教員の側からも、議論が行われることが望ましい。

## 広く学内への説明求める

今回の改革の意義や目標、問題の解決に向けて系域、教育組織、研究組織のそれぞれの立場から、今後も積極的に議論が行われることが望ましい。





# 本学の 障害学生支援 を知る

## OSDとは?

今年度から学内各所に緑の文字で「OSD」と書かれた看板が設置された。これは、障害学生支援への案内用看板だ。

本学の障害学生支援の取り組みは、障害学生支援センターが中心となり、多くの障害学生が在籍している。障害学生支援について、どのような取り組みが行われているのか、誰もが知るべきだ。

OSDとは、OSD (Office for Students with Disabilities) の青柳まゆみ助教に話を聞いた。

OSDでは、聴覚障害、視覚障害、聴覚障害と視覚障害を併発する障害学生、目に見えない障害学生、学習能力が低下している学生、運動・視覚・聴覚の各障害学生、OSDでは、毎年入学者の健康診断(発達障害)も含め、目に見えない障害学生を持つ学生も幅広く支援している。運動・視覚・聴覚の各障害学生、OSDでは、毎年入学者の健康診断(発達障害)も含め、目に見えない障害学生を持つ学生も幅広く支援している。

支援チームは、聴覚障害学生支援チームはパソコンで講義内容を入力し、聴覚障害学生が授業内容を聴くことができる。また、聴覚障害学生が授業内容を聴くことができる。また、聴覚障害学生が授業内容を聴くことができる。

## 聴覚

### 聴覚障害学生の耳に

聴覚障害学生支援チームは、聴覚障害学生が授業内容を聴くことができる。また、聴覚障害学生が授業内容を聴くことができる。また、聴覚障害学生が授業内容を聴くことができる。

## 障害学生支援の窓口

支援チームがOSDの下に組織され、ピア・チューター制度(障害学生支援する学生がピアを組織する)により支援体制を整えている。

本学の障害学生支援の窓口は、OSDの青柳まゆみ助教に話を聞いた。



聴覚障害学生への授業支援の様子

## 運動

運動障害学生支援チームは、運動障害学生が授業内容を聴くことができる。また、運動障害学生が授業内容を聴くことができる。また、運動障害学生が授業内容を聴くことができる。

## 障害学生の声

「組織や制度がしっかりして安心して大学生活を送りたい」と語る。

## 運動

山ノ上さんは運動障害があり、普段車いすで生活している。支援について「教職員理解があり、いつでも相談できる。支援について「教職員理解があり、いつでも相談できる。」



笑顔で語る山ノ上さん

## 多様なニーズに対応

「組織や制度がしっかりして安心して大学生活を送りたい」と語る。また、聴覚障害学生支援チームは、聴覚障害学生が授業内容を聴くことができる。また、聴覚障害学生が授業内容を聴くことができる。

## 視覚

視覚障害学生支援チームは、視覚障害学生が授業内容を聴くことができる。また、視覚障害学生が授業内容を聴くことができる。また、視覚障害学生が授業内容を聴くことができる。



本学の支援について話す木真さん

## 視覚

木真さんは視覚障害がある。本学は他の大学の人と同じく、いつでも場所を把握できる。支援について「教職員理解があり、いつでも相談できる。」

## 身近な親切に感謝

「このように通訳生がサポートしてくれるのは、本当にありがたい」と語る。また、聴覚障害学生支援チームは、聴覚障害学生が授業内容を聴くことができる。また、聴覚障害学生が授業内容を聴くことができる。

「このように通訳生がサポートしてくれるのは、本当にありがたい」と語る。また、聴覚障害学生支援チームは、聴覚障害学生が授業内容を聴くことができる。また、聴覚障害学生が授業内容を聴くことができる。

## 相互の意思疎通が大切

「このように通訳生がサポートしてくれるのは、本当にありがたい」と語る。また、聴覚障害学生支援チームは、聴覚障害学生が授業内容を聴くことができる。また、聴覚障害学生が授業内容を聴くことができる。

# 「共生キャンパス」 目指して



自転車通行禁止の標識

**施設面での工夫**  
自転車通行禁止

最近総合研究棟の南から第2エリアへ抜ける通りに置かれた立て看板に気づいた人も多いのではないかと。9月から人間系系棟の中間が自転車通行禁止になった。

危険はけり知れない。視座を利活用出来る。危険はけり知れない。視座を利活用出来る。危険はけり知れない。視座を利活用出来る。

**共生目指し整備続く**  
障がい学生への配慮が、前編で述べたように、内外から多くの障がい学生が訪れる。狭い通路や多めのエレベーターなど、不便さを感じてしまう。共生キャンパスの整備は、障がい学生が安心して利用できる環境を整えることが目的である。

障がい学生への配慮が、前編で述べたように、内外から多くの障がい学生が訪れる。狭い通路や多めのエレベーターなど、不便さを感じてしまう。共生キャンパスの整備は、障がい学生が安心して利用できる環境を整えることが目的である。

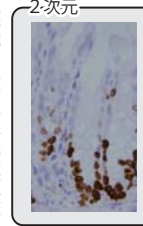
障がい学生への配慮が、前編で述べたように、内外から多くの障がい学生が訪れる。狭い通路や多めのエレベーターなど、不便さを感じてしまう。共生キャンパスの整備は、障がい学生が安心して利用できる環境を整えることが目的である。



**大腸がんを立体的に分析**  
大腸がんの発生や再発の仕組みを解明するために、立体的な解析が行われている。従来の2次元解析に加え、3次元解析が行われることで、がんの発生や再発のメカニズムがより詳しく理解される。

大腸がんの発生や再発の仕組みを解明するために、立体的な解析が行われている。従来の2次元解析に加え、3次元解析が行われることで、がんの発生や再発のメカニズムがより詳しく理解される。

大腸がんの発生や再発の仕組みを解明するために、立体的な解析が行われている。従来の2次元解析に加え、3次元解析が行われることで、がんの発生や再発のメカニズムがより詳しく理解される。



2次元 3次元

**気兼ねなく声を**  
障がい学生が安心して声をかけることができるように、教職員が積極的に声をかけ、サポートを行うことが大切である。

障がい学生が安心して声をかけることができるように、教職員が積極的に声をかけ、サポートを行うことが大切である。

障がい学生が安心して声をかけることができるように、教職員が積極的に声をかけ、サポートを行うことが大切である。



撮影地：筑波山麓の河川



撮影地：筑波山麓の河川

**自然図鑑**  
筑波の川に、鳴く魚が住んでいる。これは胸びれと基礎部の骨を擦り合わせる音なのだ。

筑波の川に、鳴く魚が住んでいる。これは胸びれと基礎部の骨を擦り合わせる音なのだ。

**気兼ねなく声を**  
障がい学生が安心して声をかけることができるように、教職員が積極的に声をかけ、サポートを行うことが大切である。

障がい学生が安心して声をかけることができるように、教職員が積極的に声をかけ、サポートを行うことが大切である。

**視点を**  
障がい学生が安心して声をかけることができるように、教職員が積極的に声をかけ、サポートを行うことが大切である。

障がい学生が安心して声をかけることができるように、教職員が積極的に声をかけ、サポートを行うことが大切である。

**車椅子から**  
菊地 堯  
上:「車椅子から」の連載で使用されたロゴマーク



**本紙元記者 故・菊池堯氏**  
同窓生らが追悼文集を発行

本紙記者として活動し、2008年8月27日に持病の筋ジストロフィーが悪化した故・菊池堯氏。同窓生の手により、追悼文集が発行された。

本紙記者として活動し、2008年8月27日に持病の筋ジストロフィーが悪化した故・菊池堯氏。同窓生の手により、追悼文集が発行された。

**視点を**  
障がい学生が安心して声をかけることができるように、教職員が積極的に声をかけ、サポートを行うことが大切である。

障がい学生が安心して声をかけることができるように、教職員が積極的に声をかけ、サポートを行うことが大切である。

お問い合わせ: 030-5353040 (筑波大学新聞編集室)

お問い合わせ: 030-5353040 (筑波大学新聞編集室)

お問い合わせ: 030-5353040 (筑波大学新聞編集室)

お問い合わせ: 030-5353040 (筑波大学新聞編集室)

お問い合わせ: 030-5353040 (筑波大学新聞編集室)

お問い合わせ: 030-5353040 (筑波大学新聞編集室)











# Who's Who?

0円で自転車日本縦断を達成

## 袴田大輔 さん(国総4年)



旅に使ったロードバイクにまたがり、微笑む袴田さん

2カ月間、お金を使わない生活を、今何人か想像できただろうか。袴田大輔さん(国総4年)は、今年7月から9月までの3カ月間で、費用0円での自転車日本縦断を達成した。日本最北端の北海道の宗谷から、最南端の沖縄の波照間島まで、たくさんの人の善意による日本縦断

の旅。自分は人生を売られている。そのことを身を持って感じる旅だった。袴田さんは、そう語る。自転車日本縦断を決めたのは、2年休学し、世界一周旅行を終え昨年(2010年)のことだった。もう自分の限界に挑戦する冒険がしたい、日本の良さを再発見したい。そんな思い

### 想いをのせて限界に挑戦

#### 「生かされている」こと実感する

かこの挑戦を決意した。赤いロードバイクにまたがり、自転車0円日本一周と書かれたTシャツを着て、ペダルをこいだ。友人らが出発前に書いてくれた手紙は、人々の想いをのせて、走る。食費、水費、電気代……。食料は、商店やスーパーをまわって分けとらしたり、水は川の清流を補給した。また、自給自足で野菜を育てて、携帯電話の充電も行う。宿泊場所は、ほとんどもが野宿で、時々友人の家泊りもあっていた。

旅中は、常に空腹がききと、薄暗いトンネルを通ると、トックリにひかれる恐怖が襲いかかる。どこまで行っても、戦う相手は自分。だからこそ、出会い、人々の優しさ、応援に励まされ、リアルタイム情報発信していたFacebookやTwitterでも、多くの励ましの声が届き、袴田さんの挑戦を知った見知らずの人が、差し入れを持って会いに来るといふこともあった。道中、被災地の現状も目の当たりにした。石巻では、友人が活動するボランティア団体へ、お礼の気持ちを手伝った。去らぬ動かない鳥

や、放置されたがれきを見て、「自分たちでできることは、まだたくさんある」と実感した。自転車の旅を達成して、「やれば出来ることが多い」と改めて感じた。袴田さんは語る。自分の意を強く持つ、それは、必ず見つけていく人がいる。協力してくれる人が集まっていく。もったいなく思うものは、自分も誰かに手渡したいという気持ちで。これからは、いろいろなことに挑戦したい。国総4年の袴田大輔さんは、7月11日、宗谷地方の稚子から、9月22日、波照間島まで、1万2千キロの自転車で日本縦断を達成した。

次号は

11月7日(月)

発行予定です

#### 編集後記

た。入部して生半かかわらず、トッパン作りは3年生顔負けの技術10面の短歌を作ってくれた1さん、11面の鳥人間を作ってくれたKさん、センスの良さに編集室は和やかな空気に包まれました。

私、12月の2号、有終の美を飾るよ、ジョークのセンスも磨きたいものです。(編集長・西川大照「社会学」)

## 台風15号の被害本学でも



平砂トンネルを抜けると倒木が行く手を阻んでいた

2面へ

学生生活

## 歌声響くオータムコンサート



50人以上の聴衆の前で、歌い上げる団員たち

5面へ

学芸

## 世界柔道2011 パリ



先輩の小野(右)と熱戦を繰り広げた西山(左)(写真提供=アフロ)

8面へ

スポーツ

## バスケットボールリーグ戦



新しいユニフォームに身をつつみ、優勝を狙う(写真提供=TSA武田)

9面へ

スポーツ